

平成30年度四万十町教育研究所 第1回運営委員会会議録

1 日 時 平成30年5月29日(火) 13:30～14:50

2 場 所 四万十町農村環境改善センター 第1会議室

3 出席者

運営委員 宮崎宏治 味元浩子 矢野芳恵 石崎豊史 戸田晶秀
(欠席) 金崎成朗 武田伸也 宮脇さち

事務局 川上哲男教育長
岡所長 中川研究員 山崎教育相談員 伊賀教育相談員
齋藤SSW 柳本SSW 佐竹指導員 小野川指導員

4 傍聴者 0名

5 日 程

- (1) 委嘱状交付
- (2) 教育長挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 役員選出 会長・副会長決定
会長：宮崎宏治 副会長：金崎成朗
- (5) 協議
 - ①教育研究所の概要
 - ②平成30年度 事業について
 - ③その他

6 協 議

- (1) 教育研究所の概要
(事務局より、資料P1～P4にて、設置目的、基本方針、業務内容、重点施策、職員構成について説明する。)
【質疑なし】
- (2) 平成30年度 事業について 資料P5平成30年度四万十町教育研究所事業計画(案)
 - ① 教育研究活動(研究員の調査研究テーマ)
(事務局より、資料P7「調査研究計画書」にて説明する。)
【質疑なし】
 - ② 四万十町教育研究会の事務局
(事務局より、30年度は休会とし、年2回理事会を開催して、再開・廃止について検討する旨の説明をする。)

【質疑】

宮崎会長： 理事会の開催時期はいつごろか。

事務局： 7月と11月頃を予定している。

宮崎会長： 昨年度の理事会では、今年は休会とし、方向性を今年の理事会にゆだねるということか。昨年度の申し送り事項等は無いのか。

事務局： 特に無い。理事は小中学校所属であり、教職員の意見も収集しながら最終的にどうするかを検討するということである。

戸田委員： 旧町の研究会は、教員からの自主的な教科研究の場の要求により設置されたと聞いている。町村合併により、改めて教育研究会新体制により研究してきたが、この10年で学校現場はますます忙しくなったと感じる。自分たちのやりたい研究ができることが一番いいと思うが、やらされている感じがしていたのが現状ではないかと改めて思う。元教師としては、残念であるが、仕方ないかと思う。

教師は子どもと遊ぶ事で子どもの実態がわかるが、忙しすぎてその時間が無くなりアンテナが張りにくくなっているのではないかと心配する。

宮崎会長： 本来は理事会で話すことであるが、委員の先生方はどう思うか。

矢野委員： 旧町時代に興津中にいたとき、興津中には英語の教師が1人しかいなく、同じ教科の先生が集まれる研究会の場がありがたかった。無くなるのは寂しいが、昨年度、公開授業者が決まりにくかった部会もあり、先生が忙しすぎてのことではないかと思う。やらされ感で研究会をやってはいけないと思い、休会もやむを得ないと思う。

味元委員： 窪川小学校にいたとき、理科部会で四万十川に行って先生方との交流もあり新鮮な気持ちだったことを覚えている。当時は悉皆の研修が今に比べはるかに少なかったが、ここ何年かで、夏休み中も普段の授業の時も研修に参加してだれか先生がいない状況である。東又小には二年次、四年次の若い先生がいるが、すごく大変な毎日で朝も早く来て夜も遅くまでやっており、自分たちの若い時とはずいぶん違う。研究会は、せつかくの他校の先生方との情報交換の場でもあるが、重点をどこに置くかで精選されていくことは仕方ないのかと思う。

事務局： 学校現場を外から見ているが、とても忙しそうである。提出物は多くなり英語の教科化や道徳の評価方法など深刻な課題を現場は抱えており、大変だと思う。

③ 学校研究支援

(事務局より、Q-Uの取組(質問紙の配布)、ドクター(沢田先生)と連携した「いのちの学習」への支援、校内研修支援について、説明をする。)

【質疑】

宮崎会長： Q-Uの結果データを教育研究所に集めているが、分析は難しいのではないか。

事務局：（周囲の状況等も踏まえて現状を説明する。）

⑥ 研究協力校の依頼

（事務局より 資料P 1 2～P 1 3にて説明する。）

【質疑なし】

⑦ 四万十教科書センター

（事務局より 教科書の管理、教科書展示会について説明する。）

【質疑なし】

⑧ その他の取り組み

（事務局より 研修、所内会・全体会、学校への支援、研究所通信「しまんと」の発行、ホームページによる情報発信について説明する。）

【質疑なし】

宮崎会長： 30年度事業計画については承認でよろしいか。

全委員： はい。

(3) その他

【意見等なし】

(閉会)